

公益財団法人日本バスケットボール協会

2021 年度 7～6 月期事業方針

新型コロナウイルスの感染拡大が依然収まらない中で、国内外のスポーツを取り巻く環境は、いまだ正常化の兆しが見えない状況にある。しかし、バスケットボールファミリーが一丸となり、この困難に立ち向かい、乗り切っていくためにも、JBA として、政府方針等に基づき、刻々と変化する状況に適応するとともに、バスケットボール環境の維持・拡大に努める。

◇事業方針【2021 年度 7～6 月期】

- ① 「バスケで日本を元気に」の理念のもと、コロナ禍でも【する・みる・ささえる】環境を維持・発展させる
- ② JBS2021 の方針・目標の達成に向けた中期経営計画の実施

◇重点実施事項【2021 年度 7～6 月期】

- 東京五輪以降の 2023 年 FIBA ワールドカップ^o、2024 年パリ五輪（男女 5 人制・男女 3 人制）に向け、強化体制を構築する
- 都道府県バスケットボール協会、トップリーグ、各種連盟等との連携を強化し、刻々と変化する状況に臨機応変に対応しながら、事業を遂行するとともに、バスケットボール価値向上に努める
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、関わる方の安全・安心を確保した上で、日本代表戦・ウインターカップをはじめとする JBA 主管大会を開催し、バスケットボールの価値向上に努める
- 『JBS2021』の実現に向け、最適な組織体制を構築、より効率的・効果的な組織運営を行う
- 暴力暴言等根絶の実現に向け、ALL バスケ体制で各種施策を推進する
- JBA 未登録競技者層（ファーストスポーツ含む）へのアプローチに向けた施策の検討実施を行う
- 競技者に加えて、審判/指導者等の登録を推進することで、バスケットの質を向上させ、バスケットボールファミリーの拡大を図る
- リーグ戦文化の醸成等、選手育成や競技環境の充実に向けた各種事業の実施・制度設計を行う
- 「FIBA バスケットボールワールドカップ 2023」に向け、ステークホルダーとの連携を強化し、準備を進める

◇主要活動

1. 関連組織ガバナンス

(1) JBA、PBA（都道府県協会）、BLG、WJBL、各種連盟、協力団体等との連携強化

- ① 新型コロナウイルス感染症による、組織活動におけるサポートの実施
- ② PBA 連絡会、全国専務理事連絡会、PBA マネジメント人材養成等を実施し、組織基盤向上を図る
- ③ 日本社会人バスケットボール連盟（JSB）、全日本大学バスケットボール連盟（JUBF）の機能強化と事業の推進への指導等
- ④ 日本障がい者バスケットボール連盟加盟団体の活動推進のサポート
- ⑤ 協力団体（全国高体連専門部、中体連、専門学校、定通制、高専、スペシャルオリンピックス日本）との連携と協力
- ⑥ アンダーカテゴリー（U12/U15/U18）における活動の推進や会議体の実施
- ⑦ ブロック協会およびブロック事業における役割の整備と連携

(2) 登録制度および D-fund 制度

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響への対応方針の策定と都道府県等へのサポート
- ② 競技者数の増加に向けた具体的方針と実施
- ③ D-fund 運用の見直しとサポート、PBA 評価制度の検討

(3) 一般団体スポーツ団体ガバナンスコード対応への指導およびサポート

- ① PBA、WJBL、B3、JSB、JUBF におけるガバナンスコード対応への指導およびサポート

2. JBA 組織運営

(1) JAPAN BASKETBALL OFFICE の体制構築

- ① 関係団体間の事務局機能の連携強化、人材の交流促進
- ② 事務局人材の育成・強化

(2) 「JBS2021」および「中期経営計画」の策定と進捗管理

- ① JBS2021 に基づき、中期経営計画を策定
- ② 経営企画グループを中心に、中期経営計画の進捗管理の為、横断的かつ包括的な管理・サポートを行う

(3) NF 向けスポーツ団体ガバナンスコード対応

- ① ガバナンスコード適合性審査に向けた対応

3. 代表関連

長期的な選手育成・強化体制の構築を図るべく、引き続き「一気通貫プロジェクト」を推進するとともに、強化に関わる全ての関係者の『日常を世界基準に』することで、Japan's Way を具現化する

(1) A 代表

- 男子① 2023 年ワールドカップ、2024 年パリ五輪を見据えた強化体制の構築
- 男子② 国際試合の機会を活用し、選手個々の国際経験を高める
- 女子① 継続して A 代表×アンダーカテゴリー代表と連携・連動した強化プランの遂行
- 女子② スキルコーチを登用し選手個々のレベルアップを遂行

(2) アンダーカテゴリー代表

- 男子① 高いフィジカルレベルの習得と、コンタクトスキルの向上を目的にした強化活動の推進
- 男子② ポジション・サイズアップや英語でのコミュニケーション能力の向上
- 女子① 大型選手の強化、ユティリティプレイヤーの養成、海外の日本人パスポート保持者のタレント発掘活動

(3) 3×3

- ① 2024 年パリ五輪出場権獲得に向けた、強化体制の構築

4. 国際関連

(1) コロナ禍における FIBA/FIBA Asia との連携強化

- ① 国際移籍/FIBA 公式大会関連等
- ② 男子アジアリーグ/女子アジアクラブチャンピオンズカップ構想
- ③ オンライン会議等による情報収集・意見交換等

(2) 日本代表チーム支援

- ① 東京オリンピックに向けた世界強豪国との強化試合の調整等

(3) コロナ禍における NF との連携強化

- ① 東京オリンピックに向けた事前合宿・強化試合の調整等
- ② 既存のパートナーシップ提携国との関係強化
- ③ 新たなパートナーシップ提携国の模索

- ④ オンライン会議等による交流の推進

(4) 国際交流・協力事業に向けた関連団体との連携強化

- ① JOC、JICA との事業展開の検討
- ② 駐日外国公館との交流

5. 普及育成関連

(1) 長期的視野に基づいた年代別育成方針/システムの確立

- ① ユース育成組織における一貫した情報伝達・発掘育成体制の強化
- ② ユース育成指導者/保護者に対する育成方針の周知・浸透
- ③ ユース育成指導者に対する年代別指導内容の反映・周知

(2) 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の整備

- ① U12/U15/U18 における育成視点での登録問題の施策検討
- ② U12/U15/U18 における育成視点での競技環境方針の具現化・提言

6. 指導者関連

(1) コーチ登録者数拡大に向けた施策

- ① 対象者別（女性コーチ、若手コーチ、アシスタントコーチ）の各施策の検討と推進
- ② ファーストスポーツ推進（キッズ関連事業、学校体育）に向けた取り組み
- ③ 都道府県指導者養成委員会の基盤整備及び支援・協力体制の構築

(2) コーチライセンス制度の確立と質の向上

- ① 新たな S 級コーチ養成講習会実施に向けた講習プログラムの構築
- ② コーチデベロッパーの質の向上と人員確保に向けた取り組み
- ③ コーチライセンス別の適正なコーチ登録者数の検討及び改善に向けた取り組み

(3) 指導現場におけるインテグリティの確保

7. 審判関連

(1) 審判・審判インストラクターライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの継続構築

- ① ライセンスに応じた講習会プログラムの継続構築
- ② インストラクターの育成。インストラクターの指導を通じた競技規則・審判技術の標準化
- ③ 全国統一の評価基準によるライセンス認定、評価の実施
- ④ トップリーグ担当審判員のレベルアップに向けたシステム構築

(2) 審判員数増加および多様性受容のための施策

- ① 女性審判員のライフプランに対応した環境整備
- ② U18 審判員の環境整備
- ③ 若手上級審判員の育成強化策の構築
- ④ 審判活動の魅力、競技規則の普及と理解促進

(3) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

8. 競技運営関連

(1) 日本代表戦/各種大会の価値向上ならびに安定的な大会運営

- ① コロナ感染対策をしっかりと講じた、安心・安全な大会の開催
- ② 日本代表戦の事業性の追求とさらなる価値向上
- ③ ウインターカップの認知度向上ならびに天皇杯・皇后杯の露出拡大

- ④ Jr ウインターカップおよび全国ミニのブラッシュアップ
- ⑤ U18 リーグ戦（トップリーグ、ブロックリーグ）開催に向けた運営体制の構築

(2) 各種大会の管理・サポート業務

- ① 競技会委員会の機能充実と各種競技会の管理体制の整備
- ② PBA 競技会委員会の活動（要項整備、国内競技会申請の徹底等）に対する支援体制の充実
- ③ JBA 以外の団体が主管する全国大会（国体、IH、全中等）の運営支援・連携の強化
- ④ 競技会委員会における競技会カレンダー調整機能の整備
- ⑤ 競技環境の充実に向けた各種規程の整備

(3) TO/スタッフ/コミッショナーの強化・育成・指導体制の確立（すべて 3x3 を含む）

- ① JBA/PBA の TO 委員会組織の整備と情報連携の体制確立
- ② 将来的な国内ライセンス化に向けたトップリーグ担当者登録制度の整備
- ③ FIBA ライセンス取得へ向けた育成の仕組みづくり
- ④ 一貫性・統一性を持った技術指導体制の確立に向けた TO マニュアルの整備
- ⑤ アンダーカテゴリーにおける TO 指導の充実に向けた TO 主任向けマニュアルの整備

(4) 3x3 競技の普及、競技環境の整備および日本代表強化へ繋がる競技大会の実施

- ① 日本選手権の大会価値向上、PBA における予選大会の開催支援
- ② 競技普及に向けた各種活動の強化

(5) FIBA バasketボール・ワールドカップ 2023 に向け、LOC が主体となり、ステークホルダーと連携して準備を進める

- ① ステークホルダーと連携した大会運営体制の整備
- ② FIBA と連携し、協賛料収入や入場料収入の最大化に向けた具体的な計画を立案
- ③ 大会の認知度向上のため、男子日本代表戦や BLG オールスターゲーム（沖縄開催）と連携したプロモーション活動の実施
- ④ 大会予算の適宜見直しと適切な予算管理

9. 広報・プロモーション関連

(1) バasketボール界全体の露出強化

- ① 日本代表の価値向上に努める
- ② ウインターカップをはじめとする JBA 主管大会の価値向上に努める
- ③ 3x3 の競技普及および価値向上に向けた広報体制の強化
- ④ BLG/WJBL/PBA 他、ALL バスケ体制の広報連携

(2) バasketボールの普及振興・競技者登録の推進に寄与する広報活動

- ① 『する』『みる』『ささえる』『携わる』方々に向けた情報の公開・伝達、および満足度向上
- ② 過去大会結果等、情報のコンテンツ化を促進

10. コンプライアンス関連

暴力暴言等の根絶に向けた体制を整備し、より良いBasketボール環境を構築する

(1) 通報窓口の設置および運用

(2) コンプライアンス関連の機能を統括する部門を設置し、抑止から懲罰（裁定／規律）・再教育等までを一体的に推進

- ① 抑止⇒インテグリティ委員会を中心に方針・コンテンツを作成し、暴力暴言等行為の抑止に関する各種施策を関連グループにおいて実施する
- ② 懲罰⇒都道府県協会等を含めた裁定／規律委員会での懲罰の適正化・迅速化を図る

③再教育等⇒指導者養成セッションが主体となり、指導者の倫理観を高めるとともに再発防止に向けたプログラムを構築する

(3) コンプライアンス意識の向上を目的に、JBA 役職員や都道府県協会等に対する研修の実施

以上